

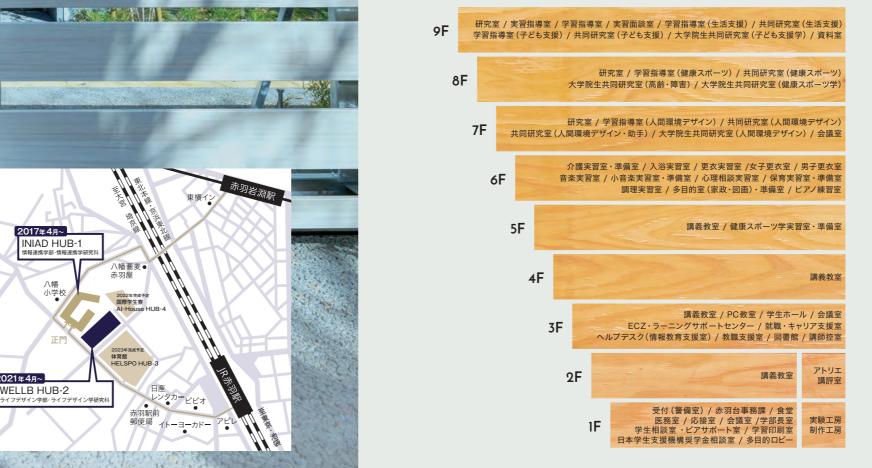
赤羽台キャンパス

新校舎完成

WELLB HUB-2

2021年4月よりライフデザイン学部とライフデザイン学研究科の新たな学びの場となる、地下1階・地上9階建ての新校舎「WELLB HUB-2」が完成しました。「WELLB」の由来である「well-being (ウェルビーイング)」は、心身ともに健康で健やかな状態にあることを指し、その実現に向けた教育・研究の拠点という意味を込めています。

建築設計は、2017年に竣工した「INIAD HUB-1」や新国立 競技場などを手掛けた限研吾建築都市設計事務所が担当。 「つなぐ」をテーマに、地域社会との連携を図りながら社会問題 の解決・明るい未来の創造を目指します。





- 1 JR赤羽駅から続く坂道を抜けた緑道にある正面 エントランス付近は、近隣住民の方にも開かれた 「まちかど広場」となっています。
- 2 3階には、学生ホールや図書館、就職・キャリア 支援室、ECZ・ラーニングサポートセンター、教職 支援室などの施設があり、多くの学生たちが交流 する場所となります。
- 3 2階から1階にかけて立体的に3方向へと広がる 屋外の大階段「トポテラス」。WELLB HUB-2 の特徴の一つで、多方面への動きを可能にした 構造です。
- 4 上層階へ行くにつれてせり出す構造と、アルミ素材のメッシュ状の庇やスクリーンには、直射日光をやわらげる効果があります。環境面に配慮した優しい設計の校舎です。
- 5 1階エントランスホールから5階まで続くエスカレーター部分は吹き抜けとなっており、開放感のある空間となっています。上下移動の手段は、エレベーターとエスカレーター、階段と充実しています。

04 TOYO UNIVERSITY NEWS No.261 05

つながる赤羽台キャンパスの未来

赤羽台キャンパスの教育・研究環境は、来年度以降も段階的に拡充していきます。







- 6·7 生活支援学のより実践的な学びを可能とするために、介護 実習室、調理実習室、心理相談実習室など実際の施設を 再現した実習室が6階フロアに集結。子ども支援学で使用 する保育実習室にはウッドデッキのテラスが設けられて います。
- 8・9 人間環境デザイン学を学ぶ学生が使用する実験工房と制作工房。広いワークスペースのほか加工室や塗装室・乾燥室など創作を行うための充実した部屋が並びます。演習や展示・講演会のスペースとしても使用される1階中央部分の床には、長さや距離感覚を養うための1,000mmと900mm四方のラインが引かれています。
- 10·11 各階にあるフロアマップや案内サインなど、さまざまな 箇所で木材を使用。温もりのある空間を演出しています。



国際学生寮 AI-House HUB-4

地上5階建て、学生約300人収容可能の国際学生寮「AI-House HUB-4」がキャンパス内に誕生予定。「AI」は、「会い」「合い」「間」「藍」「愛」「哀」などさまざまな意味を含み、ここでさまざまな学生が出会い、異文化を感じ、学びながら、愛すべき生涯の友情が生まれ、退寮するときには互いに哀しみ合う、そのような多くの意味を込めています。約半数は外国人留学生の入居となる予定で、さまざまな国の学生とともに暮らすことで、日本にいながら豊かな国際感覚を養う一大拠点となります。



完成予定

体育館 HELSPOHUB-3

今後、WELLB HUB-2とガラス張りのブリッジでつながる「HELSPO HUB-3」。「健康スポーツ科学部*= Faculty of Health Sports Science」が由来であり、アジアにおける教育・研究の拠点を目指す、という意味を込めています。2023年4月開設予定の福祉社会デザイン学部(仮称)**と健康スポーツ科学部(仮称)**が学ぶ新校舎と体育館で構成され、福祉・デザイン・スポーツ科学の面から少子高齢化や健康問題などの社会課題の解決にも取り組みます。

※2021年3月現在設置構想中。学部名称は仮称であり、計画は変更となる可能性があります。

O6 | TOYO UNIVERSITY NEWS No.261 | O7